

技術・設計力で工務店支援

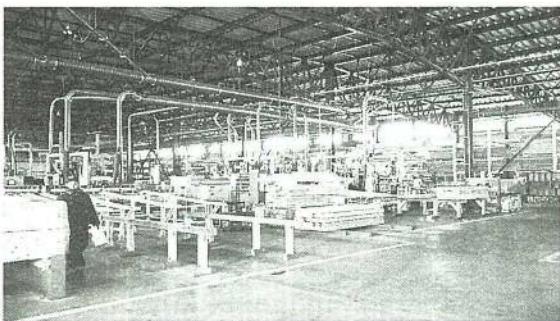
復興需要は終盤

ポラテック

18年3月期は11カ月で
11万5000坪となり、
前年同期比で5%
程度増加している。工
場建設から毎年前年比
増となってている。

主要なターゲットに當社施設、事務所、商業を展開している。東北での物件の特徴として、非住宅の受注比率が15%前後で、ポラティック5工場の平均値の2倍になっている。福

構造計算や倒壊シミュレーションソフトのウッド・イノベータNEF-XTなど耐震性を高める技術を使い、工務店の差別化につながる提案もしている。



ポラテック東北工場は稼働から5年が経った

開設、13年2月
城県加美町でポ
ク東北工場が稼
めた。東北復興
地域雇用を目指
して進出した
工場は当初、
ポラスグルー
プからの出向
11人と地元雇
用14人の25人
体制でスター
トした。
13年夏には
1ライン増設
し、月間1万
5000坪の
加工体制を構
築、現在はボ
ラテックから
の出向9人を
2人を採用し、今年も
1人を内定している。
が今では合板ラインの
リーダーになり、地元
の高校とは信頼関係が
できている」と話す。
宮城県を中心とした
復興需要は14年がピー
クで、16年ごろには福
島県の復興需要が台
頭。岩手県の沿岸部や
福島県の避難解除地域
はまだこれから需要は
見込めるものの、ペー
クが過ぎている感があ
る。それでも生産坪数
は毎年増加しており、

営業部課の仙台事業支店（山口哲治支店長）では、復興需要が増加したことで需要もおう盛だったが、現在では巡航速度に戻りつつある。「避難地域解除になった南相馬や浪江などでは、ようやく自宅を直す動きが出ている」（村上直之仙台事業支店課長）といふ。7年の歳月は長く、既にほかの地域に生活の拠点を移してしまっているため、自宅を再建して戻る人がどうやらいるかは分からぬ。